

松川浦におけるアサリの成熟と稚貝発生状況

福島県水産試験場相馬支場
平成9～17年福島県水産試験場事業報告書

1 部門名 水産業－栽培漁業－アサリ

分類コード 19-05-54000000

2 担当者 佐藤利幸

3 要旨

松川浦内の主要漁場において、4月から10月にかけて月1回、アサリ成貝の、殻長、殻高、殻幅、軟体部重量、生殖巣の成熟状態を測定した。測定結果から肥満度及び成熟度を算出し、漁場別の季節変化をみた。肥満度及び肥満度の季節変化から漁場別に産卵期を推定した。

肥満度については5月から徐々に高くなる傾向を示した。各漁場とも概ね7月の値が最も高くなり、8月以降は低くなった。

成熟度については6月から急激に高くなる傾向を示した。各漁場とも8月の値が最も高くなり、9月以降は低くなった。

成熟個体は各漁場とも概ね6月から9月にかけてみられ、7月、8月の出現割合が高かった。

これらのことから、産卵は松川浦の全ての漁場で行われていると考えられ、産卵期間は6月から9月であり、主産卵期は7月、8月と推定された。

松川浦内の全海域において、年1回/月、地点別にアサリを粹取り採集し殻長を測定した。殻長15mm未満のものを稚貝とし、地点別の稚貝発生数及び松川浦全体の稚貝発生水準を求めた。

松川浦全体の稚貝発生状況を見ると、水準は異なるが調査を開始した平成9年以降、毎年発生がみられた。地点別では、湾口部に近い北側の海域で稚貝発生数が多かった。

松川浦のアサリ資源は昭和53年から56年にかけて年間約300から500トンの種苗を他県から移植することで維持していたが、移植量の減少とともに漁獲量も平成5、6年までは減少傾向にあった。現在も移植量は減少しているが、漁獲量が増加傾向にあるのは稚貝発生水準が比較的高いことが関与していると考えられた。

4 その他の資料など

なし